【逗子市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

逗子市学校教育総合プランでは、未来を切り拓いていく子どもたちを支える力として、三つの力『確かな学力』『健康な心身」『豊かな人間性』を培いたい力として教育活動を展開している。1人1台端末を始めとするICT環境は、その教育活動を推進していくために必要なツールの一つである。ICTを有効に活用し、子どもたちの一人ひとりの多様な学びや、協働的な学びを実現し、自ら考え、心豊かにたくましく生きる子どもたちを育てていきたい。

また、情報モラル教育の充実を図り、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度を育む。

２．GIGA第１期の総括

本市では、令和2年に学習者用端末として、小学校・中学校ともにChromebookを整備した。授業支援ソフトとしては、「ロイロノート」を導入し活用を進めている。また、情報活用能力を育成するためのソフトなども導入し、子供たちのICTスキルの育成に取り組んだり、デジタル採点システムを導入することで、ICT活用を推進するだけでなく、教員の働き方改革にも取り組んだりしてきた。

令和6年9月～10月に、本計画を策定するため、各校の管理職・ICT担当者・小中学校各学年代表者1名を対象に独自でアンケート調査を実施した。アンケートの結果、①児童生徒が調べる場面、②児童生徒が考えをまとめ・発表する場面、③教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりをする場面において、「Google Workspace for Education」を活用していると回答した教員が最も多く、いずれも8割を超える結果となった。また、④児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面においても「Google Workspace for Education」を活用していると回答した教員が7割以上と最も多く、様々な場面で「Google Workspace for Education」が積極的に活用されていることがわかった。加えて、①～④いずれの場面においても6割～7割の教員が「ロイロノート」を活用していると回答しており、授業支援ソフトも積極的に活用していることがわかった。「日常的に端末活用（週3回以上）を行っているか」についても、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した教員が9割以上という高い結果となり、ICTを積極的に活用することができているといえる。

本市は次期端末の入れ替えを令和8年度に予定している。今回のアンケートの結果、「現在の端末のサイズや形状等が児童生徒の活用に適しているか」については「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な意見が6割を超える結果となった。一方で、現在の1人１台端末の活用の中で課題に感じていることとして、端末の故障が多く、児童生徒の端末が不足していることなどが挙がっていることから、現場の声を参考にしつつ、端末

選定や保証について慎重に検討を進める。また、教員のスキルの差（活用頻度の差）やICT支援員など、活用を支援する人材が確保されていないことも課題として見られているため、GIGA第2期に合わせて検討を進めていく。

３．１人１台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

本市では、以下の「教育DXに係る当面のKPI」に示されている目標値を達成するため、下記内容の検討・実施を目指す。

項目	KPI	目標値（目標年度）
１人１台端末の積極的活用	毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	100%（R6）
	情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置	4 校/人（R7）
	１人１台端末を週３回以上活用する学校の率	100%（R6）
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%（R10）

「2. GIGA第１期の総括」に記載のとおり、「日常的に端末活用（週３回以上）を行っている」と回答した教職員が全体の９割以上であったことから、端末の積極的な利活用ができていると考えられる。一方で、アンケート調査の結果、「ICT支援員など、活用を支援する人材が確保されているか」について「ややあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答をした教員が約7割、「十分な研修が行われているか」について「ややあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答をした教員が約4割いることがわかった。また自由記述において、活用方法の引き出しの少なさや、教員による活用頻度の差など、教員の「スキル」に関わる部分にも多くの課題があることがわかっている。GIGA第2期に向けては、ICT支援員の配置を検討するとともに、研修の充実や活用事例の横展開なども行い、教員のスキルアップを目指していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

本市では、以下の「教育DXに係る当面のKPI」に示されている目標値を達成するため、下記内容の検討・実施を目指す。

項目	KPI	逗子市の現状	目標値（目標年度）
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において１人１台端末を週３回以上使用させている学校の率	小：100% 中：100%	100%（R6）
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において１人１台端末を週３回以上使用させている学校の率	小：80% 中：33%	80%（R8）
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において１人１台端末を週３回以上使用させている学校の率	小：80% 中：33%	80%（R8）

	児童生徒同士がやりとりする場面において１人１台端末を週３回以上使用させている学校の率	小：80% 中：33%	80%（R8）
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において１人１台端末を週３回以上使用させている学校の率	小：40% 中：33%	80%（R8）

「2. GIGA第１期の総括」に記載のとおり、「児童生徒が調べる場面」「児童生徒が考えをまとめ・発表する場面」「教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりをする場面」において「Google Workspace for Education」を活用していると回答した教員が最も多く、いずれも8割を超える結果となった。また、次いで「ロイロノート」と回答した教員が多く、授業の内容にあわせながら有効的に各ツールを活用していることがわかった。GIGA2期にあたっては、KPIの目標値を達成するためにも、引き続き「Google Workspace for Education」と「ロイロノート」を中心に活用しながら、好事例の横展開を積極的に行うことで、端末の活用を推し進めていく。

また、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」においては、「Google Workspace for Education」「ロイロノート」に加え、「児童生徒が教科の学習を行うためのドリル教材」を活用していると回答した教員も多数いた。今後は、ドリル教材等を積極的に活用することで、個別最適な学びを充実させていく。

(3) 学びの保障

本市では、以下の「教育DXに係る当面のKPI」に示されている目標値を達成するため、下記内容の検討・実施を目指す。

項目	KPI	目標値（目標年度）
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100%（R8）
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100%（R8）
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100%（R8）
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100%（R8）

アンケートより、希望する不登校児童生徒への支援において、実際に、リモート授業の取組事例が挙がっている。また、本市では現在不登校児童生徒に対する支援として、外部の人材を導入し、連携しながら組織的に対応を行っている。今後、より不登校児童向けのオンライン配信を充実させるべく、現在の体制の見直しを図るとともに、配信機材等の導入や教員に対しオンライン配信の方法を再周知する等、さらなる支援の方法を

検討する。

教育相談について本市では、定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、児童生徒が思いを伝えやすい体制を整え、相談があった際には迅速かつ適切に対応をしている。今後は児童生徒が望むタイミングで相談できるよう、相談フォームを設置する等さらなる対応を検討していく。

多種多様な背景を有する児童・生徒や特別支援を要する児童・生徒に対しても、本市では教育研究相談センター・教育支援センター「なぎさ」・こども発達支援センター・子育て支援課・児童相談所・特別支援学校の地域支援担当等との連携を深め、必要な場合は福祉的支援につなぐことも含めて、児童・生徒へ多角的なサポートを行っている。今後も引き続き多角的なサポートの充実を図る。また、学校現場での支援実態として、具体的な事例も多く挙がってきていることから、市内の好事例等を共有したり、他自治体の事例を展開したりするなど、支援体制の強化を検討していく。